

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成 30 年 5 月
盛岡市（岩手県）

全体総括

○計画期間；平成 25 年 12 月～平成 30 年 3 月（4 年 4 月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

「商店街の賑わいや魅力を楽しむ」、「暮らしや便利さを感じる」、「盛岡の歴史や文化に触れる」中心市街地の形成を基本方針として認定された基本計画に基づき、各事業を実施したところ、観光客の増加が図られるとともに、大通コアエリア周辺では居住人口の増加が見られることから、総じて中心市街地の賑わいの創出に寄与していると考えられる。

特に、「中央通二丁目地区優良建築物等整備事業」により、大通コアエリア周辺の居住人口が増加するとともに、「(仮称) 岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）活用事業」により、新しい観光拠点ができたことで魅力が向上した。

一方で、「盛岡バスセンター再整備事業」が完了に至らなかったなど、中心市街地全体の賑わい創出には依然課題が残っている。

【中心市街地の状況に関する基本的なデータ（1 月 1 日現在）】

(人)

(中心市街地 区域内)	平成 24 年度 (計画期間 開始前年度)	平成 25 年度 (計画期間 開始年度)	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年 度(計画最 終年度)
人口	13,032	13,278	13,324	13,552	13,461	13,367
人口増減 数	104	246	46	228	△91	△94
社会増減 数	—	100	80	73	△48	△28
転入者数	—	918	856	917	814	836

※中心市街地の転出入者、出生死亡者数について、管理システムの変更により平成 25 年よりも前の町丁別の人口データを抽出することが困難であるため、数値を算出することができない。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ① 概ね順調に進捗・完了した ② 順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
② 若干の活性化が図られた
③ 活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④ 活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由（2. における選択肢の理由）

計画していた 60 事業中、12 事業が完了（施設整備事業 8、ソフト事業 4）、43 事業に着手（施設整備事業 8、ソフト事業 35）することができたことから、概ね順調に進捗・完了したといえる。なお、未着手は、施設整備事業の 5 事業のみである。

施設整備事業の「盛岡バスセンター再整備事業」については、東日本大震災や東京五輪開催の影響に伴う資材費や人件費の高騰により、事業主体が事業実施を断念したため、計画期間中の完了に至らなかった。

ソフト事業については、すべての事業に着手し、4 事業は完了しており、「(仮称) 岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）活用事業」では岩手銀行赤レンガ館が中心市街地の新たな観光拠点としてオープンし、展示等の会場として活用されるとともに、「ポータルサイトと連携した新地域カードシステム事業」では、「もりおかまちなか（ラリー）検定事業」と連携するなどした結果、中心市街地の賑わいの創出につながったことがあげられる。

目標指標については、「盛岡市街の宿泊観光客数」は 50.0 万人（H22 年 基準値）から 63.4 万人（H29 年）と目標値の 56.2 万人を大きく上回るとともに、「大通コアエリア周辺の居住人口」が 5,202 人（H25 年 基準値）から 5,273 人（H30 年）と目標に近い結果となった。

また、「中央通二丁目地区優良建築物等整備事業（優良建築物等整備事業）」の完了や、道路整備などの施設整備事業の実施により、居住地域としての魅力の強化が図られ、市全域の人口が減少する中、中心市街地の人口は 13,278 人（H25 年度）から 13,367 人（H29 年度）へと増加した。

一方で、盛岡バスセンターを始め、中心市街地に立地する施設の老朽化に伴う解体や移転が相次いだ影響を受け、施設周辺の歩行者が減少したこともあり、「もりおか歴史文化館の入館者数」が 25.1 万人（H24 年 基準値）から 22.8 万人（H29 年）へと減少し、「中心市街地の歩行者・自転車通行量」も 48,332 人（H25 基準値）から 43,373 人（H30 年）へと減少しているため、状況としては若干の活性化が図られたとしたところである。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
- ② 若干の活性化が図られた
- ③ 活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④ 活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

中心市街地の人口については、計画開始年度である平成 25 年度から計画最終年度である平成 29 年度までを見ると、微増傾向を維持しており、本市においては中心市街地の活性化が図られ、計画を推進した成果であると認められる。

計画に位置づけた事業の進捗状況については、全 60 事業のうち、12 事業が完了、43 事業が実施中となっており、未着手は施設整備事業の 5 事業のみであったことから、概ね順調に実施されたものと認められる。

中心市街地活性化事業の核となる施設整備事業については、8 事業が完了、8 事業が実施中となっており、民間事業である「中央通二丁目優良建築物等整備事業」や、盛

岡市が事業主体となった「盛岡駅西口バス乗場整備事業」が完了したことは、中心市街地の居住や利便性の向上などに貢献したものと評価できる。

しかし、市民からの期待も高い「盛岡バスセンター再整備事業」など5事業が未完了のまま計画期間を満了したことは、目標達成への課題として残ることとなった。

ソフト事業については、4事業が完了、35事業が実施中となっており、計画したすべての事業に着手しており、特に、「ポータルサイトと連携した新地域カードシステム事業」は、中心市街地活性化に大いに貢献したものと認められる。

目標指標については、「大通コアエリア周辺の居住人口」及び「盛岡市街への観光客入込数」が増加し、達成状況もA及びbとなっていることから、本計画の実施が中心市街地活性化に果たしたものは大きいと認められる。

一方で、「中心市街地の歩行者・自転車通行量」が減少傾向にあることには、市民からの期待も高い「盛岡バスセンター再整備事業」が未完了のまま計画期間を満了したことの影響のほか、中心市街地の商店街等の変化が影響していることも考えられることから、今後も状況の分析を進め、より効果的な中心市街地活性化の方策を検討することが必要と認められる。

なお、「もりおか歴史文化館の入館者数」については、事業は計画どおりの進捗であったことから、目標達成できなかったことの要因については、目標設定なども含めて分析する必要がある。

盛岡市中心市街地活性化協議会では、これまで7回開催した会議において、基本計画で目指す中心市街地の姿を実現するために、支援、協力を行ってきた。基本計画の事業遂行により、中心市街地全体としては、活性化に一定の効果があったものと評価しているが、全ての課題が解決されたわけではないことから、今後も新たに策定された「中心市街地活性化 つながるまちづくりプラン」の推進により、中心市街地の活性化を図っていく必要がある。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
- ② 若干の活性化が図られた
- ③ 活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④ 活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

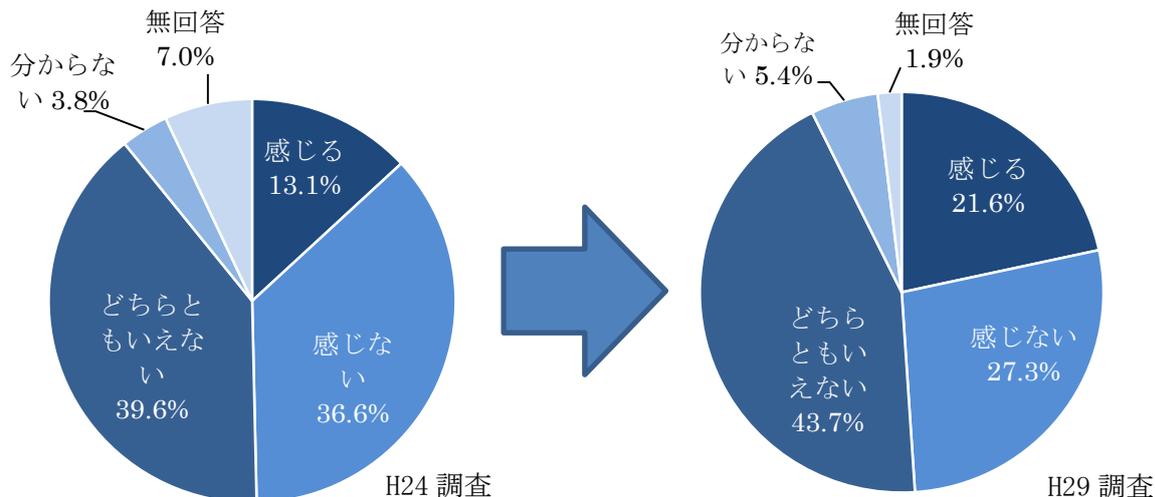
【詳細を記載】

- ・調査方法 アンケート方式による調査
- ・調査地域 市内全域
- ・調査対象者 盛岡市に居住する18歳以上の者
- ・対象数 約4,900人（18歳以上の2%）
- ・回答数 2,249人（回答率45.9%）
- ・調査時期 平成29年8月

平成24年に実施した同様の調査と比較すると、「魅力を感じる」と回答した割合は8.5ポイント増加し、「魅力を感じない」と回答した割合は9.3ポイント減少した。

また、年代別では、20代以下は「魅力を感じる」との回答率が「魅力を感じない」との回答率を上回り、比較的若い世代がより魅力を感じている。

問 中心市街地に魅力を感じるか



問 中心市街地に魅力を感じるか（年代別の回答）

		魅力を感じる	魅力を感じない	どちらともいえない	分からない	無回答
年 代	18～19 歳	55.6%	3.7%	37.0%	3.7%	0.0%
	20～29 歳	37.0%	16.7%	42.0%	4.3%	0.0%
	30～39 歳	19.7%	32.7%	42.5%	4.3%	0.8%
	40～49 歳	21.4%	31.8%	43.1%	3.0%	0.7%
	50～59 歳	19.1%	30.4%	45.4%	3.9%	1.2%
	60～69 歳	15.8%	31.6%	45.9%	5.2%	1.5%
	70 歳以上	22.8%	26.7%	41.4%	6.5%	2.6%
	無回答	21.4%	22.3%	44.3%	8.0%	3.9%

6. 今後の取組

平成 30 年度以降は、「触れる・感じる・楽しむ つながるまちづくり」をテーマに、当市が独自の計画として策定した「中心市街地活性化 つながるまちづくりプラン」（以下、「プラン」という。）の事業を、中心市街地の事業者や商店街、市民及び市が実施することにより、それぞれが担う役割を踏まえ、相互に連携し、継続して中心市街地の活性化に取り組むこととする。

重点事業として「(仮称)新盛岡バスセンター整備事業」、「中央通三丁目地区優良建築物等整備事業」、「商店街活性化支援事業」等の実施を予定している。

「プラン」においては、認定中心市街地活性化計画と同様に、基本方針ごとに目標指標を設定し、新たに市内に中心市街地活性化連絡会議を設置し、部局を横断する体制を整備するとともに、中心市街地活性化協議会の意見も聴きながら取り組むこととしている。

また、毎年度フォローアップを実施し内容を公表するとともに、社会情勢の変化に合わせ、事業の追加などを検討しながら、「プラン」を推進する。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
賑わいあふれる 中心市街地	中心市街地の歩行者・自転車通行量	48,332人 (H25年3月)	52,000人 (H30年3月)	43,373人	平成30年 3月調査	<u>c</u>
賑わいあふれる 中心市街地	大通コアエリア周辺の居住人口	5,202人 (H25年3月)	5,400人 (H30年3月)	5,273人	平成30年 3月調査	<u>b</u>
訪れたいくなる 中心市街地	盛岡市街の宿泊観光客数	50.0万人 (H22年)	56.2万人 (H29年)	63.4万人	平成29年	A
訪れたいくなる 中心市街地	もりおか歴史文化館の入館者数	25.1万人 (H24年)	27.0万人 (H29年)	22.8万人	平成29年	C

注) 達成状況欄

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

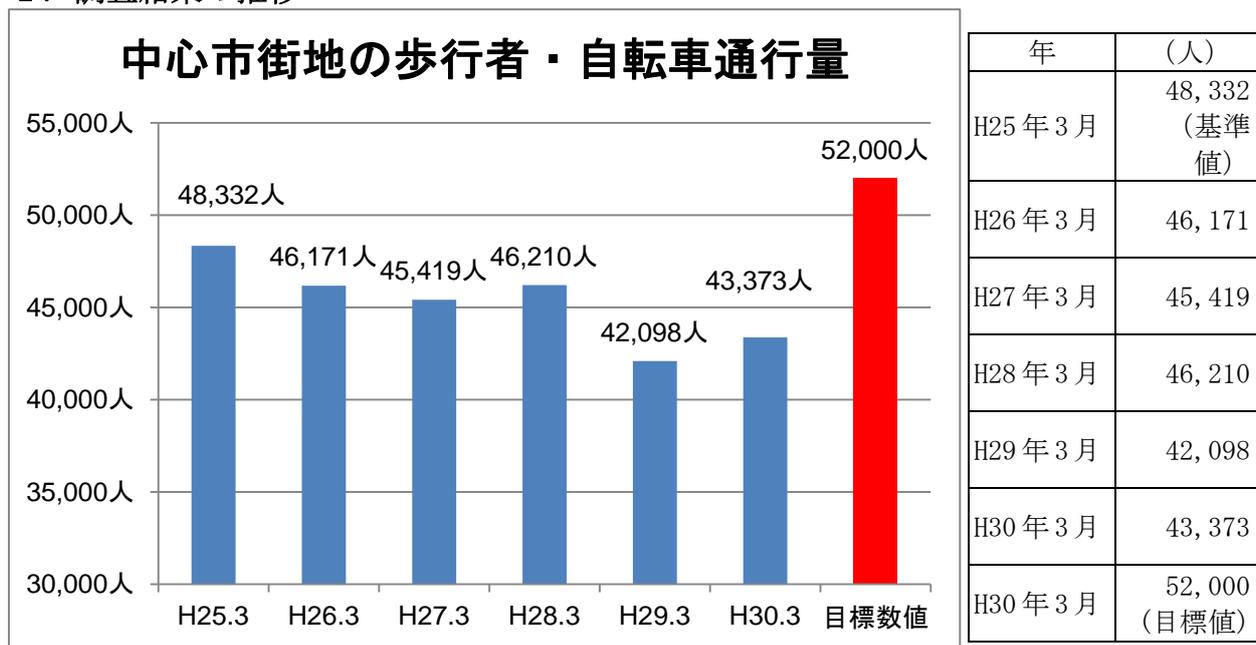
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「中心市街地歩行者・自転車通行量」 ※目標設定の考え方基本計画 P89～P93 参照

1. 調査結果の推移



※調査方法：歩行者・自転車通行量調査（毎年3月に実施）

※調査日：平成30年3月25日（日曜日）、26日（月曜日）

※調査主体：盛岡まちづくり株式会社

※調査対象：歩行者及び自転車通行者、2日間8地点（数値は加重平均）

2. 目標達成の状況

地点	町名	調査日	平成25年3月 晴れ/曇り (基準値)	平成26年3月 雪/晴れ	平成27年3月 晴れ/雪	平成28年3月 晴れ/晴れ	平成29年3月 曇り/雨	平成30年3月 晴れ/晴れ	基準値との比較 (30-25)
A	材木町	日曜	1,522	1,226	1,650	1,311	1,163	1,372	△ 150
		平日	2,329	1,813	1,556	1,900	1,720	1,899	△ 430
B	盛岡駅前通	日曜	8,578	7,740	8,857	8,193	9,194	8,089	△ 489
		平日	9,599	9,805	7,819	8,906	7,665	8,705	△ 894
C	大通三丁目	日曜	8,251	7,916	9,295	8,357	8,600	8,083	△ 168
		平日	9,539	10,067	8,327	9,185	8,007	8,773	△ 766
D	大通二丁目	日曜	8,977	7,721	8,771	8,466	8,159	7,976	△ 1,001
		平日	10,023	10,210	8,487	9,559	7,938	8,922	△ 1,101
E	中ノ橋通一丁目	日曜	4,498	3,793	4,387	4,263	3,943	4,016	△ 482
		平日	6,429	6,971	4,854	6,351	5,497	5,993	△ 436
F	中ノ橋通一丁目	日曜	5,862	4,730	6,245	4,768	4,759	4,501	△ 1,361
		平日	6,555	6,544	5,478	6,848	5,527	5,602	△ 953
G	大通一二丁目	日曜	5,055	4,322	5,789	4,413	3,934	4,164	△ 891
		平日	5,079	4,917	5,118	5,146	4,033	4,304	△ 775
H	南大通一丁目	日曜	1,994	2,017	2,353	2,188	2,096	2,099	105
		平日	2,374	2,549	1,851	2,566	1,961	2,247	△ 127
計			96,664	92,341	90,837	92,420	84,196	86,745	△ 9,919
1日当たり(計/2)			48,332	46,171	45,419	46,210	42,098	43,373	△ 4,959

A地点：久慈工芸館前・村定楽器店前 B地点：宴工房じょ居前・ホテルルイズ前 C地点：平出金物店前・旧藤澤体育堂前・クリエイトビル前 D地点：盛岡大通駐車場・野村證券 E地点：水晶堂・三井リパーク F地点：鍵屋 G地点：クラブチェンジ・サンクイーンビル H地点：吉田電機商会

目標指標である「中心市街地歩行者・自転車通行量」の増加に向けた各事業については、一部事業が計画期間内に終了することができなかった。

「商店街情報発信事業」、「商店街活性化事業」、「空き店舗活用事業」等の各種ソフト事業は、区域内の商店街の活性化及び魅力の強化に寄与し、歩行者通行量に対して一定の効果があつたと推測される。

一方で、事業主体の事業実施断念が理由で進捗が遅れた「盛岡バスセンター再整備事業」及び「自転車駐車場再整備事業」については、期待通りの効果が発現しなかった。

達成状況については、最新値が目標値及び基準値を下回ったことからcとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 盛岡バスセンター再整備事業（株盛岡バスセンターほか）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業開始・完了時期	[実施時期]平成26年度～ 【実施中】
事業概要	現在の盛岡バスセンターを建替え、バスターミナル機能の強化を図るとともに、商業機能や公益的機能が充実した複合施設として再整備するとしたもの。
目標値・最新値	[目標値] 2地点（F・H）＝140人増加 [最新値] 2地点（F・H）＝1,168人減少
達成状況	未達成
達成出来なかった理由	資材費や労務費の高騰などにより、当初の計画どおりの進捗が難しいことから株盛岡バスセンターが事業実施を断念し、更地とした土地を市が取得しており、現在再整備に向けて検討中であるため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業が完了していないため、効果は発現していない。 既存の建物を解体し、更地とした土地を市が取得し、再整備事業が着手されるまでの期間、整備予定地の一部の管理を地元商店街等で構成される団体に貸し出し、地域活性化に資するイベントの開催等に活用し、エリアの賑わいが維持されている。
盛岡バスセンター再整備事業の今後について	公共性の高いバスターミナル機能を維持するため、盛岡市とバス事業者が協力することとし、バス乗降施設は盛岡市の負担も検討することとし、平成29年3月に更地とした土地を市が取得している。 平成29年度は、事業手法及び事業者募集基準の検討を行うため、民間事業者が参入する場合の採算性等の調査を実施しており、平成31年度以降の工事着手の予定である。 市では平成30年度から、新たに都市整備部内に「まちなか整備室」を設置し、早期の整備を目指すこととしている。 「プラン」においても、重点事業に設定している。

②. (仮称) 岩手銀行旧中ノ橋支店 (赤レンガ) 活用事業 (株)岩手銀行)

支援措置名及び支援期間	[支援措置] 国宝重要文化財等保存整備費国庫補助金 [実施期間] 平成 25～27 年度 [支援措置] 重要文化財建築物等公開活用事業 [実施期間] 平成 27 年度
事業開始・完了時期	[実施時期] 平成 24 年度～平成 28 年度 【済】
事業概要	岩手銀行旧中ノ橋支店 (赤レンガ) を保存修理し，見学・展示等の施設として活用を図る。
目標値・最新値	[目標値] 2 地点 (E・F) = 106 人増加 [最新値] 2 地点 (E・F) = 1,616 人減少
達成状況	未達成
達成出来なかった理由	来場者数に比例し，周辺エリアの通行量が増加することを想定していたが，想定よりも来場者が多かったにもかかわらず，周辺施設の取壊し等の影響もあり，回遊性への波及効果が見られなかったため。
計画終了後の状況 (事業効果)	平成 27 年度に保存修理が完了し，平成 28 年 7 月 17 日より一般公開が開始された。開館から平成 29 年 7 月末まで (約 1 年間) で 69,605 人 (5,570 名/月) の来場者があり，現在も 5,470 名/月の同水準の来場者数となっている。 一方で，平成 30 年 3 月下旬に実施した通行量調査での周辺の通行量は，開館前 (平成 28 年 3 月調査時) に比べ増加には至らなかった。
(仮称) 岩手銀行旧中ノ橋支店 (赤レンガ) 活用事業の今後について	東京駅の設計者として知られる辰野金吾とその教え子で盛岡市出身の葛西萬司が設計した建築物として，市外から観光客を迎えるとともに，一部施設の貸し出しを行うことで，市内外の来街者の増加と，中心市街地の賑わいを創出することを目的とし，引き続き活用に取り組む。

③. (仮称) 河南地区駐車場整備事業 (盛岡まちづくり株)

支援措置名及び支援期間	[支援措置] 商店街まちづくり事業 (中心市街地活性化事業) [支援期間] 平成 26 年度
事業開始・完了時期	[実施時期] 平成 28 年度 【実施中】
事業概要	河南地区にある平面駐車場を立体化し，河南地区の商店街や核店舗である商業施設の利便性の向上を図る。
目標値・最新値	[目標値] 2 地点 (F・H) = 192 人増加 [最新値] 2 地点 (F・H) = 1,168 人減少
達成状況	未達成

達成出来なかった理由	資金確保が想定どおり進まなかったこと及び盛岡バスセンター再整備事業の見直しの影響を受け、事業内容の見直しを行っているため期間中に事業が完了しなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業が完了していないため、効果は発現していない。
（仮称）河南地区駐車場整備事業の今後について	平成26年度に商店街まちづくり事業補助金の交付を受け開発可能性調査を実施したところ、駐車場の需要が多い肴町商店街の周辺には駐車場が少なく、休日のピーク時には駐車できないことから、駐車場の整備が来街者の利便性を向上させ、さらなる賑わいの創出が期待できる旨の調査結果が示された。 これを受け、事業主体と商工会議所、市（商工担当、都市整備担当）、地元建築事務所等で構成される検討委員会を立上げ、定期的に会議を開催し検討を続けている。

④. 自転車駐車場整備事業（盛岡市）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業開始・完了時期	[実施時期]平成24～31年度 【未着手】
事業概要	居住人口が多い肴町及び大通・菜園地区において自転車駐車場を整備することにより、自動車から自転車・徒歩へと転換を図る。
目標値・最新値	[目標値] 2地点（D・F）＝115人増加 [最新値] 2地点（D・F）＝1,973人減少
達成状況	未達成
達成出来なかった理由	自転車駐車場の整備について、関係機関との協議に時間を要しているため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業が完了していないため、効果は発現していない。
自転車駐車場整備事業の今後について	自転車駐車場の整備箇所の見直しを含めた検討が必要となっている。 また、盛岡バスセンター再整備事業においても自転車駐車場の整備を検討している。

⑤. 商店街活性化事業（盛岡市商店街連合会、各商店街等）

支援措置名及び支援期間	[支援措置]中心市街地活性化ソフト事業 [支援期間]平成25～29年度
事業開始・完了時期	[実施時期]平成19年度～ 【実施中】

事業概要	商店街を商業・サービス業の場としてだけでなく、市民共有の公共の場と捉え、様々な市民企画の発表の場として活用し、商店街に年間を通じた魅力の向上を図る。
目標値・最新値	[目標値] 8 地点 (A~H) = 318 人増加 [最新値] 8 地点 (A~H) = 4,959 人減少
達成状況	未達成
達成出来なかった理由	本事業を始め、商店街情報発信事業、空き店舗活用促進事業、市 (いち) の開催などにより商店街の活性化は図られたが、年間を通じた通行量の増加にまでは至っていないため。
計画終了後の状況 (事業効果)	各商店街等が開催するイベントの内容に工夫を重ね、屋台村や商業施設を活用したキャンプなどが開催されるなど、商店街の活性化が図られ、魅力が高まってきている。
商店街活性化事業の今後について	各種イベントを通して、商店街の活性化やエリアの魅力向上が図られており、「プラン」においても、重点事業に設定していることから、引き続き事業を継続していく。

⑥. 居住施設整備に係る事業の効果

- ア 中央通二丁目地区優良建築物等整備事業 (優良建築物等整備事業) (盛岡市中央通二丁目地区再開発ビル建設協議会)
- イ 八幡地区優良建築物等整備事業 (優良建築物等整備事業) (八幡地区再開発ビル建設協議会)
- ウ 大通地区優良建築物等整備事業 (優良建築物等整備事業) (盛岡市大通地区再開発ビル建設協議会)

支援措置名及び支援期間	[支援措置]ア 社会資本整備総合交付金 (優良建築物等整備事業) [実施期間]ア 平成 25~27 年度 イ~ウ 支援措置なし
事業開始・完了時期	[実施時期]ア 平成 25~27 年度 【済】 イ 平成 25~26 年度 【未着手】 ウ 平成 27~29 年度 【未着手】
事業概要	土地の高度利用を図るとともに、防災性、省エネ等に配慮したマンションを建設し、まちなか居住の推進を図る。
目標値・最新値	[目標値] 4 地点 (C・D・F・H) = 331 人増加 [最新値] 4 地点 (C・D・F・H) = 2,686 人減少
達成状況	未達成
達成出来なかった理由	本事業を構成する 3 事業の内 2 事業が未着手となっているため。 また、完了した中央通二丁目地区優良建築物等整備事業においても、居住人口は増加したが、年間を通じた通行量の増加にまでは至っていないため。

計画終了後の状況（事業効果）	<p>事業が完了していないため、効果の発現は一部にとどまっている。</p> <p>完了した中央通二丁目地区優良建築物等整備事業では、平成27年9月に分譲マンション（110戸）が完成、全戸完売となった。</p> <p>回遊性の向上は見られなかったものの、本事業の実施により大通コアエリア周辺の居住人口の増加につながった。</p>
居住施設整備に係る事業の今後について	<p>完了した中央通二丁目地区優良建築物等整備事業については、実施により大通コアエリア周辺の居住人口の増加がみられ、周辺では、現在、当該マンション向かいにホテル、交差点をはさんだ斜め向かいに新たなマンションの建設が進められており、地区の価値が更に高まることが期待される。</p>

⑦. 公共交通利用促進関連事業（バス事業者、盛岡市等）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業開始・完了時期	<p>[実施時期]平成24年度～ 【実施中】 （まちなか・おでかけバス事業）</p> <p>平成12年度～ 【実施中】 （都心循環バス運行事業）</p>
事業概要	まちなか・おでかけバス事業等公共交通利用促進関連事業により、郊外部から中心部への来街の促進を図る。
目標値・最新値	<p>[目標値] 8地点（A～H）＝567人増加</p> <p>[最新値] 8地点（A～H）＝4,959人減少</p>
達成状況	未達成
達成出来なかった理由	事業の実施による利便性の向上に伴い公共交通の利用促進が図られたが、年間を通した通行量の増加にまでは至っていないため。
計画終了後の状況（事業効果）	まちなか・おでかけバス事業や都心循環バス運行事業等の実施により、中心市街地を訪れるための環境が整備され利便性は向上しており、都心循環バスの利用人数は計画策定時の平成25年度から、毎年度130万人を越えていることから、中心市街地の交流人口の増加に寄与している。
公共交通利用促進関連事業の今後について	「プラン」においても、まちなか・おでかけバス事業及び都心循環バス運行事業等を継続して推進していくこととしており、引き続き公共交通の利用促進を図ることに努める。

⑧. 【追加】ポータルサイトと連携した新地域カードシステム事業（盛岡商工会議所・盛岡 ValueCity(株)ほか）

支援措置名及び支援期間	[支援措置]商店街まちづくり事業補助金，地域商業自立促進事業補助金 [実施期間]平成 26 年度
事業開始・完了時期	[実施時期]平成 26 年度～ 【実施中】
事業概要	盛岡市内の商店街で共通して使用できる地域カードの導入及びポータルサイトの構築による情報発信。
目標値・最新値	[目標値] 8 地点（A～H）＝402 人増加 [最新値] 8 地点（A～H）＝4,959 人減少
達成状況	未達成
達成出来なかった理由	本事業により，商店街組織を横断した地域共通のポイントカードが立ち上げられたが，加盟店舗が一部エリアに集中しており，発行枚数に対して月間の利用者数が想定よりも伸び悩んでいるため。
計画終了後の状況（事業効果）	地域共通カードが約 10 万人に普及し，カード加盟店のポータルサイトでの情報発信も開始したことから，中心市街地の回遊性の維持に寄与しているものの，カード自体の利用者数が伸び悩んでいる。
ポータルサイトと連携した新地域カードシステム事業の今後について	加盟店の増加を図っていくとともに，地域の商店街共通のポイントカードとしてだけでなく，行政サービスを受給した際にポイントを付与するなど，利用機会の拡大に努め，回遊性の向上につながる取り組みを継続していく。

⑨. その他総合的な取り組みによる効果

ア 観光客増加による効果

イ その他の事業推進による効果（基盤整備事業 10 事業，ソフト事業 13 事業）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業開始・完了時期	[実施時期] 【実施中】
事業概要	盛岡ブランド推進事業，盛岡・八幡平観光圏整備事業等の実施により盛岡市の魅力向上を図り観光客の増加を目指すことと，その他の中心市街地活性化のための事業の推進により，通行量の増加を目指す。
目標値・最新値	[目標値] 8 地点（A～H）＝567 人増加 [最新値] 8 地点（A～H）＝4,959 人減少
達成状況	未達成

達成出来なかった理由	観光客入込数は増加しており，交通の利便性に繋がる基盤整備事業や，ソフト事業を実施し一定の効果があったものの，年間を通した通行量の増加にまでは至っていないため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 29 年の観光客入込数は約 420 万人であり，計画策定時と比較して来街者は増加している。 また，基盤整備事業や，ソフト事業の実施により中心市街地の活性化が図られており，イベント開催時における中心市街地の交流人口は増加しているが，年間を通した通行量の増加にまでは至っていない。
その他総合的な取り組みによる効果の今後について	「プラン」においても引き続き盛岡広域まるごとフェア等の中心市街地活性化のための事業を推進していくとともに，観光客に対して盛岡市の魅力を発信していくことで交流人口の増加を図ることに努める。

4. 今後について

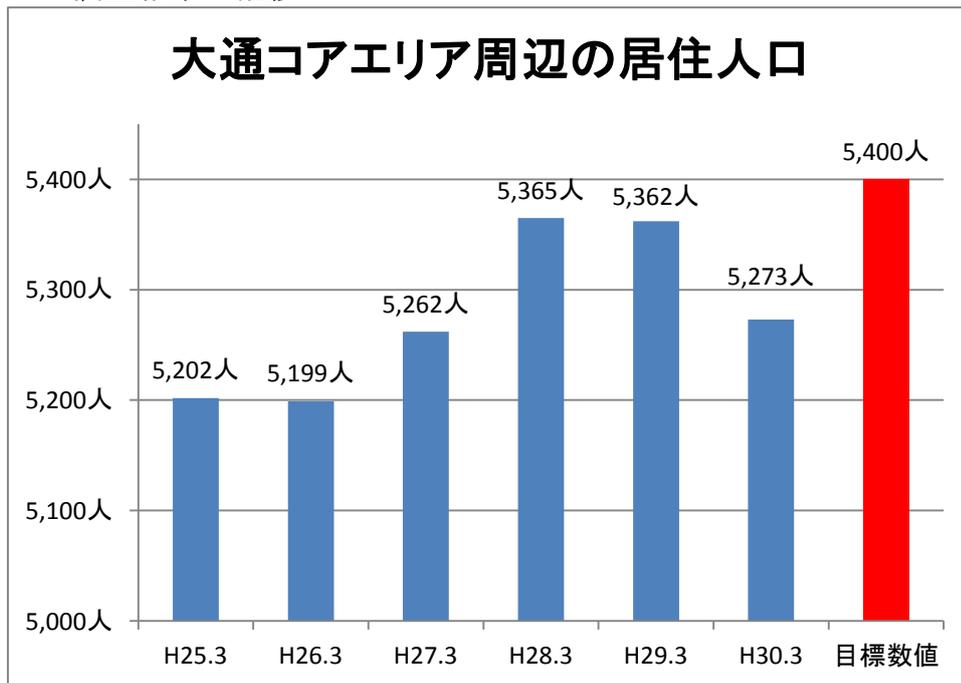
目標達成に向けた事業である「盛岡バスセンター再整備事業」は，事業者の事業撤退があり，計画期間内に完了しなかったため，計画当初に見込んでいた効果が得られなかったが，平成 29 年 8 月の市民アンケートでも，中心市街地の魅力を高めるためにバスターミナル機能の強化を要望する意見が多く，期待が高まっており，市では平成 30 年度から，新たに都市整備部内に「まちなか整備室」を設置し，早期の整備を目指すこととしている。

一方で，当該再整備予定地を市が取得した後，民間団体に貸し出し，地域活性化に資するイベントに活用し，「(仮称) 岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）活用事業」などの，中心市街地の集客の核となる事業の実施により，歩行者通行量の減少に一定の歯止めがかかっていると推測される。

また，平成 30 年度から推進する「プラン」の中で引き続き目標指標として中心市街地歩行者・自転車通行量を設定しており，その他のソフト事業の一部についても，効果の検証を行いながら継続して実施していく。

「大通コアエリア周辺の居住人口」 ※目標設定の考え方基本計画 P94～P96 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H25年3月	5,202 (基準値)
H26年3月	5,199
H27年3月	5,262
H28年3月	5,365
H29年3月	5,362
H30年3月	5,273
H30年3月	5,400 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：平成30年4月（平成30年3月末の数値）

※調査主体：盛岡市

※調査対象：大通コアエリア周辺（大通・中央通・内丸・大沢川原・菜園地区）の居住人口

2. 目標達成の状況

町名	平成25年3月 (基準値)		平成30年3月 (最新値)		増減 (平成30年-25年)	
	世帯数 (世帯)	合計 (人)	世帯数 (世帯)	合計 (人)	世帯数 (世帯)	合計 (人)
内丸	140	244	129	202	△ 11	△ 42
中央通一丁目	216	370	199	347	△ 17	△ 23
中央通二丁目	240	437	326	630	86	193
中央通三丁目	593	1,104	582	1,054	△ 11	△ 50
大通一丁目	25	61	27	47	2	△ 14
大通二丁目	26	46	27	45	1	△ 1
大通三丁目	403	742	399	729	△ 4	△ 13
菜園一丁目	81	128	83	119	2	△ 9
菜園二丁目	131	249	156	269	25	20
大沢川原一丁目	107	166	104	163	△ 3	△ 3
大沢川原二丁目	262	517	268	527	6	10
大沢川原三丁目	309	487	320	499	11	12
開運橋通	380	651	396	642	16	△ 9
合計	2,913	5,202	3,016	5,273	103	71

目標指標である「大通コアエリア周辺の居住人口」の増加に向けた各事業については、一部事業が計画期間内に終了することができなかった。

「中央通二丁目地区優良建築物等整備事業」の実施により、中央通二丁目の居住人口が増加した。

また、居住人口が減少している地区もあるが、再開発事業による一時的なものとの分析でき、参考指標である中心市街地全体の居住人口が増加傾向にあることから、大通コアエリア周辺の人口は今後再度増加していくと予測される。

達成状況については、最新値が目標値を下回ったものの基準値を上回っていることから**b**とした。

<参考 中心市街地の居住人口>

町名	平成 25 年 3 月 (基準値)		平成 30 年 3 月 (最新値)		増減 (平成 30 年-25 年)	
	世帯数 (世帯)	合計 (人)	世帯数 (世帯)	合計 (人)	世帯数 (世帯)	合計 (人)
大通コアエリア周辺	2,913	5,202	3,016	5,273	103	71
材木町	556	926	612	957	56	31
中ノ橋通一丁目	202	452	289	614	87	162
中ノ橋通二丁目	291	445	300	429	9	△ 16
紺屋町	262	476	249	450	△ 13	△ 26
神明町	314	527	340	546	26	19
肴町	702	1,354	749	1,369	47	15
南大通一丁目	361	690	369	662	8	△ 28
八幡町	427	794	422	750	△ 5	△ 44
盛岡駅前通	359	716	444	910	85	194
盛岡駅前北通	697	1,409	690	1,303	△ 7	△ 106
合計	7,084	12,991	7,480	13,263	396	272

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

- ①. 中央通二丁目地区優良建築物等整備事業（優良建築物等整備事業）（盛岡市中央通二丁目地区再開発ビル建設協議会）

支援措置名及び支援期間	[支援措置]社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業） [実施期間]平成 25～27 年度
事業開始・完了時期	[実施時期]平成 25 年度～27 年度 【済】
事業概要	土地の高度利用を図るとともに、防災性、省エネに配慮したマンションを建設し、まちなか居住の推進を図る。
目標値・最新値	[目標値] 178 人増加 [最新値] 71 人増加
達成状況	未達成
達成出来なかった理由	建築された中央通り二丁目地区では人口が増加したが、他の地区での人口減少があったため。

計画終了後の状況（事業効果）	本事業により，中央通二丁目の居住人口は437名（平成25年3月）から630名（平成30年3月）へと増加したが，内丸及び中央通三丁目では人口が減少した。
中央通二丁目地区優良建築物等整備事業の今後について	本事業の実施により大通コアエリア周辺の居住人口の増加がみられ，周辺では，現在，当該マンション向かいにホテル，交差点をはさんだ斜め向かいに新たなマンションの建設が進められており，地区の価値が更に高まることが期待される。

②. 【追加】大通地区優良建築物等整備事業（優良建築物等整備事業）（(仮称)盛岡市大通地区再開発ビル建設協議会）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業開始・完了時期	[実施時期]平成27年度～29年度 【実施中】
事業概要	土地の高度利用を図るとともに，防災性に配慮したマンションを建設し，まちなか居住の推進を図る。
目標値・最新値	[目標値] 129人増加 [最新値] 0人（事業が完了していないため）
達成状況	未達成
達成出来なかった理由	計画に遅れが生じ，事業主体が見直しを行っているため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業が完了していないため効果は発現していない。
大通地区優良建築物等整備事業の今後について	計画期間中の事業完了は難しいものとなっている。

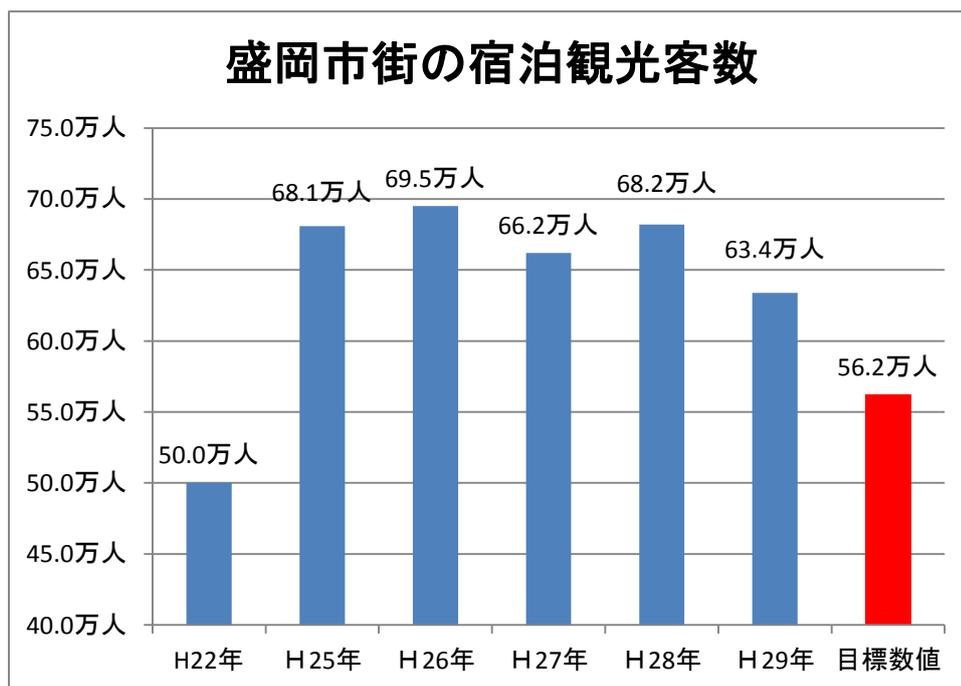
4. 今後について

主要事業である「中央通二丁目地区優良建築物等整備事業」の実施の結果，居住人口の増加が見られ，大通コアエリア周辺の人口は目標値に近づいている。

また，平成30年度から推進する「プラン」の中では，目標指標として大通コアエリア周辺のみではなく，中心市街地の居住人口を設定しており，今後も中心市街地の居住利便性の向上のための事業，ソフト事業等の実施による魅力向上に努めていく。

「盛岡市街の宿泊観光客数」 ※目標設定の考え方基本計画 P96～P98 参照

1. 調査結果の推移



年	(万人)
H22年	50.0 (基準値)
H25年	68.1
H26年	69.5
H27年	66.2
H28年	68.2
H29年	63.4
H29年	56.2 (目標値)

※調査方法：宿泊施設からの回答を盛岡市が集計

※調査月：平成30年3月（平成29年1月～12月分の数値）

※調査主体：盛岡市

※調査対象：盛岡市街の宿泊施設

2. 目標達成の状況

目標指標である、「盛岡市街宿泊観光客数」の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

「(仮称)岩手銀行旧中ノ橋支店(赤レンガ)活用事業」が完了し、平成28年にオープンしたほか、平成25年にNHKで放送された連続ドラマの波及効果や、平成28年の希望郷いわて国体・いわて大会の開催、北海道新幹線開業による交流人口の増加といった要因が重なり、宿泊観光客数は目標値を上回る高水準が続いた。

達成状況については、最新値が目標値を上回ったことからAとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①.(仮称)岩手銀行旧中ノ橋支店(赤レンガ)活用事業(株)岩手銀行

支援措置名及び支援期間	[支援措置]国宝重要文化財等保存整備費国庫補助金 [実施期間]平成25～27年度 [支援措置]重要文化財建築物等公開活用事業 [実施期間]平成27年度
事業開始・完了時期	[実施時期]平成24年度～平成28年度 【済】
事業概要	岩手銀行旧中ノ橋支店(赤レンガ)を保存修理し、見学・展示等の施設として活用を図る。
目標値・最新値	[目標値] 8,906人増加 [最新値] 12,877人増加(来場者数69,605人×18.5%)

達成状況	達成
達成した理由	平成 28 年度は 69,605 人が来館したことが、宿泊客数の増加に寄与し、計画期間中最大の 68.2 万人という結果につながったため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 27 年度に保存修理が完了し、平成 28 年 7 月 17 日より一般公開が開始された。開館から平成 29 年 7 月末まで（約 1 年間）で 69,605 人（5,570 名/月）の来場者があり、現在も 5,470 名/月の同水準の来場者数となっている。
（仮称）岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）活用事業の今後について	東京駅の設計者として知られる辰野金吾とその教え子で盛岡市出身の葛西萬司が設計した建築物として、市外から観光客を迎えるとともに、一部施設の貸し出しを行うことで、市内外の来街者の増加と、中心市街地の賑わいを創出することを目的とし、引き続き活用に取り組む。

②. 盛岡・八幡平観光圏整備事業（盛岡・八幡平広域観光推進協議会）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業開始・完了時期	[実施時期]平成 22 年度～平成 26 年度 【済】
事業概要	盛岡・八幡平広域観光圏域内の関係団体での連携を強化し、滞在型の観光を展開することで、本市を含めた広域圏の魅力を向上させる。
目標値・最新値	[目標値] 35,990 人増加 [最新値] 87,597 人増加
達成状況	達成
達成した理由	盛岡・八幡平観光圏整備事業完了の効果により、平成 26 年には基準値(平成 22 年)と比較して広域観光圏の観光客数は約 110 万人増加しており、観光の拠点として宿泊場所に盛岡市街を選択したと考えられるため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 26 年度以降も盛岡市街への宿泊客数が高水準であることから、引き続き観光拠点として来街者の増加につながっている。
盛岡・八幡平観光圏整備事業の今後について	盛岡・八幡平広域観光圏整備計画の認定期間の終了に伴い事業は完了したが、事業主体が継続して事業を実施していることから、今後も引き続き観光圏の拠点として中心市街地への観光客の増加に寄与すると期待される。

③. 夏祭り（盛岡さんさ踊り）の開催（盛岡さんさ踊り実行委員会）

支援措置名及び支援期間	[支援措置]中心市街地活性化ソフト事業 [実施時期]平成25年度～平成29年度
事業開始・完了時期	[実施時期]昭和53年度～ 【実施中】
事業概要	伝統芸能である「さんさ踊り」を地域資源として活用し、市内外からの多くの観光客を迎えることにより、近隣の商店街の活性化及び市中心部の魅力の向上を図る。
目標値・最新値	[目標値] 37,573人増加 [最新値] 43,000人増加
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	さんさ団体の派遣を行っている東北六魂祭及び東北絆まつりの過去三年間の観客が増加したことで、PR効果も高まり、さんさ踊りの期間中の観光客の増加につながったため。
計画終了後の状況（事業効果）	さんさ踊りの来場者数は、天候に左右はされるものの、計画策定時の平成25年8月の136万人からほぼ同数を維持しており、8月の外国人観光客も平成25年の779人から平成29年には3,051人へ増加していることから、観客数に対する宿泊客数の割合は増加した。
夏祭り（盛岡さんさ踊り）の開催（盛岡さんさ踊り実行委員会）の今後について	予定どおり事業は進捗しており、盛岡市街への宿泊者数の増加にも結び付いているほか、近隣商店街の活性化やエリアの魅力向上が図られており、今後も事業を継続していく。

4. 今後について

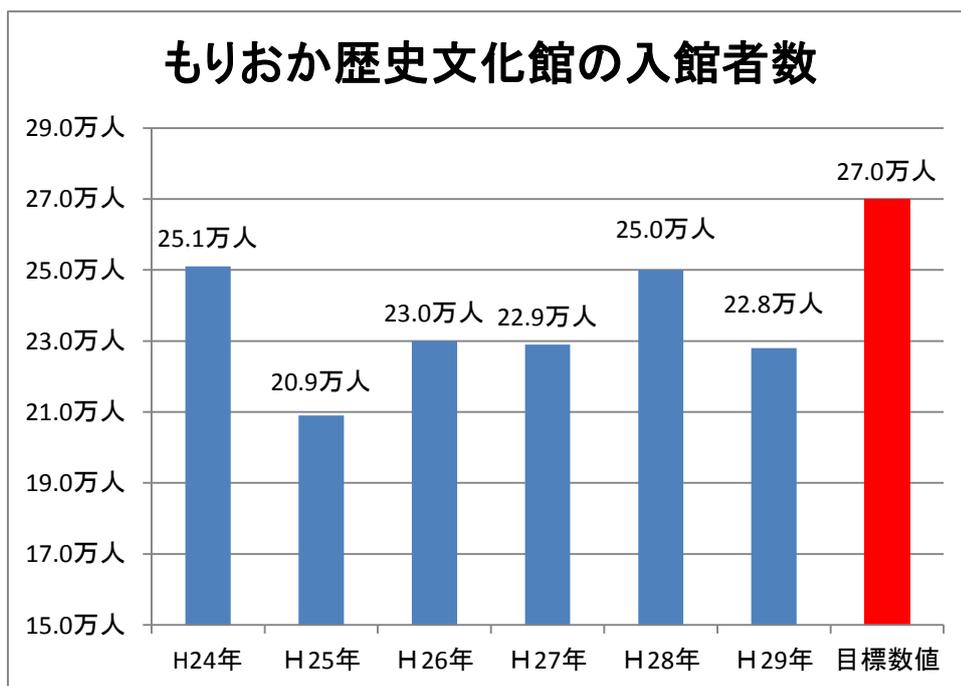
目標達成に向けた事業である「（仮称）岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）活用事業」、
「夏祭り（盛岡さんさ踊り）の開催事業」等の推進の結果、盛岡市街の宿泊観光客数は、
当初計画の目標値を大きく上回っている。

また、本市の観光客入込数についても、基準値である平成22年の443万人に対して、
ここ数年は500万人前後であり、外国人観光客も増加を続けている。

平成30年度から推進する「プラン」の中では、目標指標として、盛岡市街の観光客
入込数設定していることから、エリアの魅力を高める事業や魅力を発信する事業等の実
施による交流人口の増加に努めていく。

「もりおか歴史文化館の入館者数」 ※目標設定の考え方基本計画 P98～P99 参照

1. 調査結果の推移



年	(万人)
H24年	25.1 (基準値)
H25年	20.9
H26年	23.0
H27年	22.9
H28年	25.0
H29年	22.8
H29年	27.0 (目標値)

※調査方法：歴史文化館入館者数調査

※調査月：平成30年3月（平成29年1月～12月の数字）

※調査主体：盛岡市

※調査対象：もりおか歴史文化館

2. 目標達成の状況

目標指標である「もりおか歴史文化館の入館者数」の増加に向けた各事業については、概ね予定通り実施中である。

目標指標については、平成28年には前年比2.1万人増の25万人となったが、平成29年にはそれ以前と同水準の22.8万人となっている。これは、平成28年には希望郷いわて国体・いわて大会の開催や、20年ぶりとなった「ニッポンめんサミット in 盛岡2016」の会場として、もりおか歴史文化館前広場が活用された影響と考えられる。

達成状況については、最新値が目標値及び基準値を下回ったことからCとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① もりおか歴史文化館教育普及・学芸事業（盛岡市・もりおか歴史文化館指定管理者）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業開始・完了時期	[実施時期]平成23年度～ 【実施中】
事業概要	企画展や、学校等と連携した事業の実施により、盛岡城跡や周辺城下町を魅力的な観光資源として機能させ、市民や観光客等の回遊による賑わいの創出を図る。
目標値・最新値	[目標値] 12,550人増加 [最新値] 14,950人減少
達成状況	未達成

達成した（出来なかった）理由	周辺施設の解体，移転に伴い地域の集客力が減少し，当初計画で想定していた，歴史文化館を起点とした地域の回遊性の向上が図られず，結果として入館者数の増加にもつながらなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	もりおか歴史文化館独自の事業及びもりおか歴史文化館前広場を活用したイベントが多く開催されたことで，平成 28 年には開館当初に並ぶ入館者数を記録しているものの，開館当初の平成 24 年に比べ，入館者数は伸び悩んでいる。
もりおか歴史文化館教育普及・学芸事業の今後について	もりおか歴史文化館独自の事業のほかに，もりおか歴史文化館前広場を活用したイベントの開催や受け入れなどに積極的に取り組むとともに，継続的な開催になるよう，周辺の観光・集客施設との連携も強める。

②. まちなか情報センター運営事業（盛岡市・もりおか歴史文化館指定管理者）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業開始・完了時期	[実施時期]平成 23 年度～ 【実施中】
事業概要	中心市街地をはじめとする市内のイベントや商店街等に関する情報を提供し，中心市街地のまち歩きの拠点とすることにより，市民や観光客の回遊性を高め，中心市街地の活性化を図る。
目標値・最新値	[目標値] 5,020 人増加 [最新値] 5,980 人減少
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	周辺施設の解体，移転に伴い地域の集客力が減少し，当初計画で想定していた，歴史文化館を起点とした地域の回遊性の向上が図られず，結果としてまちなか情報センターの利用者の増加にもつながらなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	もりおか歴史文化館独自の事業及びもりおか歴史文化館前広場を活用したイベントが多く開催されたことで，平成 28 年には開館当初に並ぶ入館者数を記録しているものの，開館当初の平成 24 年に比べ，入館者数は伸び悩んでいる。
まちなか情報センター運営事業の今後について	もりおか歴史文化館教育普及・学芸事業と連携して，入館者数の増加に向けて引き続き事業を実施する。

4. 今後について

平成 28 年のもりおか歴史文化館の入館者数は 25.0 万人となり，平成 27 年に比べて約 2.1 万人の増加となった。この要因として，歴史文化館周辺で開催されるイベントによる影響が考えられることから，今後も「もりおか広域まるごとフェア」・「いしがきミュージックフェスティバル」などの周辺で開催されるイベントとの相乗効果により，中心市街地の回遊性を高める。

また、引き続きもりおか歴史文化館教育普及・学芸事業やエリアの魅力を高める事業等の取組を強化していく。